

研究科目（3年次生、4年次生、5年次生、6年次生）

※歯学研究コース履修者対象

基礎歯学研究概論	(3年)	219
基礎歯学研究	(3・4年)	221
臨床歯学研究概論	(4年)	223
歯学研究	(5・6年)	225

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 金・IV～V	必修選択 選択	単位数 1
科目番号	25104901		
科目ナンバリング・コード	DNDR33441993		
授業科目名/(英語名)	基礎歯学研究概論/(The Outline of Basic Dentistry)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	歯学研究コース	科目分類 研究科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 村田比呂司(教務委員長)/hmurata@nagasaki-u.ac.jp/病院 8階歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内 7690)/当日に各担当者へ直接尋ねること。			
担当教員(オムニバス科目等)	真鍋義孝、小守壽文、中村渉、根本孝幸、藤田修一、中山浩次、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、中留真人		
授業の概要及び位置づけ 各研究室における研究内容の紹介と配属後の実習内容について紹介し、今後の研究活動の動機づけとする。基礎歯学研究における配属先研究室を選択する。			
授業到達目標 本大学院の基礎歯学分野の研究内容について理解する。			
授業方法(学習指導法) 各基礎系分野担当教員のオムニバス形式で講義を行う。			
授業内容 1 回目 歯学研究コース概要(教務委員長) 2 回目 顎顔面解剖学(真鍋義孝): 歯科人類学の基礎と応用 3 回目 細胞生物学(小守壽文): 骨・軟骨形成、骨量維持の分子メカニズムについて 4 回目 歯科法医学(中留真人): 歯科法医学の基礎と応用について 5 回目 口腔分子生化学(根本孝幸): 細菌性プロテアーゼの病原性や分子シャペロンの機能発現機構の解明 6 回目 口腔病理学(藤田修一): 病理学と病理診断について 7 回目 口腔病原微生物学(中山浩次): 歯周病細菌の病原因子(プロテアーゼなど)について 8 回目 歯科薬理学(筑波隆幸): エンドソーム・リソソームの機能と病態および歯科への応用について 9 回目 生体材料学(渡邊郁哉): 歯科用生体材料の物性(機械的性質や物理的性質、化学的性質)について 10 回目 分子硬組織生物学(伊藤公成): 分子腫瘍学(伊藤担当)およびカルシウム輸送(増山担当)について 11 回目 加齢口腔生理学(中村渉): 体内時計・筋肉・味覚に関する研究について			
キーワード			
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	レポートにより評価する。 レポートは、各回の授業終了後1週間以内に学務係に提出するものとする。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の2/3以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	各担当教員に遠慮なく質問してください。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	金	IV～V	(歯学研究コース概要) 歯学研究コース履修に関する説明と質疑応答を行います。	教務委員長	第2講義室
2回	4	14	金	IV～V	(顎顔面解剖学) 歯科人類学の基礎と応用、およびその成果の一部について紹介すると同時に、今後の実習内容について紹介する。	真鍋	第2講義室
3回	4	21	金	IV～V	(細胞生物学) 骨・軟骨形成、骨量維持の分子メカニズムに関するこれまでの研究内容を紹介します。	小守	第2講義室
4回	4	28	金	IV～V	(歯科法医学) 歯科法医学的鑑定の概要について説明し、これまで行ってきた研究内容及び今後の実習内容について紹介します。	中留	第2講義室
5回	5	12	金	IV～V	(口腔分子生化学) 口腔生化学のこれまでのプロテアーゼに関する成果について紹介すると同時に、今後の実習内容の一部について簡単な実験を行います。	根本	第2講義室
6回	5	19	金	IV～V	(口腔病理学) 口腔病理学授業と基礎歯学研究概論との関係と口腔病理学でのコースの概要を説明します。	藤田	第2講義室
7回	5	26	金	IV～V	(口腔病原微生物学) 歯周病細菌の病原性に関するこれまでの当教室の研究内容を紹介し、コースワークでの今後の実験研究内容について紹介します。	中山	第2講義室
8回	6	2	金	IV～V	(歯科薬理学) リソソームの機能とその疾患について、これまでの薬理学分野の研究内容の紹介、および今後の実習内容について紹介します。	筑波	第2講義室
9回	6	9	金	IV～V	(生体材料学) 歯科用生体材料の各種物性と臨床適応について、これまでの生体材料学分野の研究内容の紹介、および今後の実験研究について紹介します。	渡邊	第2講義室
10回	6	16	金	IV～V	(分子硬組織生物学) 分子腫瘍学(伊藤)およびカルシウム輸送(増山)に関する最新の知見を紹介し、それぞれに今後の実習内容について説明します。	伊藤	第2講義室
11回	6	23	金	IV～V	(加齢口腔生理学) 加齢口腔生理学教室の研究を紹介し、今後の実験研究内容について説明します。	中村	第2講義室

年度 2017 学期 通年	曜日・校時 3 年次/金・IV～V 4 年次/(前)水・V (後)金・V	必修選択 選択	単位数 5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25104902 DNDR33451993 基礎歯学研究/(Basic Dental Research)		
対象年次 3 年次、4 年次	講義形態 実験形式	教室 各基礎系研究室	
対象学生(クラス等)	歯学研究コース	科目分類 研究科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 村田比呂司(教務委員長)/hmurata@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内 7690)/当日に各担当者へ直接尋ねること。			
担当教員(オムニバ ス科目等)	真鍋義孝、小守壽文、中村渉、根本孝幸、藤田修一、中山浩次、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、中留真人		
授業の概要及び位置づけ 配属先の基礎系研究室で研究を行う。 積極的に活用して、歯学の最先端の研究活動に参加する機会とすること。			
授業到達目標 本大学院の基礎歯学分野の研究内容について理解する。			
授業方法(学習指導法) 各基礎系分野担当教員の指導のもと、実験等を行う。			
授業内容 ○ 3年次と4年次で実施日が以下のとおり異なるので留意すること。 3年次:前後期の金曜日IV～V校時(180分×18回、基礎歯学研究概論受講後に開始) 4年次:前期の水曜日V校時、後期の金曜日V校時(90分×30回) ※実験など内容によっては回数や時間数に変更になる場合もある。 ○ 各コース内容に関しては次項の授業内容を参照のこと。学生との話し合いで多少の変更もありえる。 (コース) 1. 顎顔面解剖学研究(真鍋義孝):形質人類学における歯の形態学的アプローチについて学習する。 2. 細胞生物学研究(小守壽文):遺伝子改変マウスの組織学的、分子生物学的解析を行う。 3. 加齢口腔生理学研究(中村渉):体内時計の神経回路に関する実験研究。 4. 口腔分子生化学研究(根本孝幸):プロテアーゼや分子シャペロンに関して遺伝子工学実験、生化学実験を行う。 5. 口腔病理学研究(藤田修一):病理標本の作製実習及び臨床病理症例の形態学的検討を行う。 6. 口腔病原微生物学研究(中山浩次):細菌を用いた遺伝生化学的実験研究などを行う予定 7. 歯科薬理学研究(筑波隆幸):実験動物、細胞培養、遺伝子工学実験、生化学実験などを行う予定 8. 生体材料学研究(渡邊郁哉):歯科用生体材料の各種物性評価試験を行う予定 9. 分子硬組織生物学研究(伊藤公成):遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学および骨代謝学の基礎的な手技について学ぶ。 10. 歯科法医学研究(中留真人):歯科法医学的鑑定及び研究手法について学ぶ。			
キーワード			
教科書・教材・参考書	各コース教員の指定する教材		
成績評価の方法・基準等	主に発表内容、レポート等。詳しくは各コース担当教員に尋ねること。		
受講要件(履修条件)	<ul style="list-style-type: none"> ・AO 入試選抜者以外で歯学研究コースの履修を希望する者は、2 年次後期の所定の期日までに学部長に履修希望届を提出し、許可を受けなければならない。 ・履修希望届の提出があった者に対して教務委員会が選抜のうえ学部長に推薦し、学部長が許可する。 ・基礎歯学研究概論を受講後に希望する研究室を学務係に申告すること。研究室によっては人数制限が掛かる場合も有ります。 ・全体を通じて総授業数の 3/4 以上の出席が求められる。 		
備考(学生へのメッセージ)			

No.	コース	授業内容	日程	担当者
1	顎顔面解剖学研究	形質人類学における人骨資料や生体資料からのデータ採取、解析、結果の解釈などについて学習する。 定員は1名の予定	3年次/金IV～V 4年次/前期 水V、後期 金V	真鍋 北川 小山田
2	細胞生物学研究	遺伝子改変マウスの組織学的、分子生物学的解析を教員の指導のもとに行う。 定員は2名の予定		小守 宮崎 森石
3	加齢口腔生理学研究	体内時計の神経回路に関する実験研究を行う。 定員は2名の予定		中村 藤山 介田
4	口腔分子生化学研究	教員の指導のもと、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。特に歯周病原性細菌のアミノ酸代謝に関するペプチダーゼやトランスポーターを扱う。 定員は3名程度の予定		根本(孝) 根本(優) 馬場
5	口腔病理学研究	分子細胞生物学的な研究にも、患者の臨床病理診断にも不可欠な形態学的研究手法を学ぶ。パラフィン及び樹脂包埋標本の作製、免疫組織化学、細胞生物学的実験を行う。 定員は2名の予定		藤田 片瀬
6	口腔病原微生物学研究	微生物、特に細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を教員の指導のもとに行う。 定員は2～3名の予定		中山 内藤 庄子 佐藤
7	歯科薬理学研究	教員の指導のもと、動物の取り扱い方、培養細胞法、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は2～3名の予定		筑波 岡元 西下 坂井
8	生体材料学研究	教員の指導のもと、各種物性試験機器の取り扱い方、物性試験方法について学ぶ。 定員は2名の予定		渡邊 白石 バラネザハド
9	分子硬組織生物学研究	教員の指導のもと、遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学および骨代謝学の基礎的な手技について学ぶ。 定員は2名の予定		伊藤 増山
10	歯科法医学研究	歯科法医学的鑑定及び研究手法について学ぶ。 定員は1名の予定		中留

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 水・V	必修選択 選択	単位数 1
科目番号	25104903		
科目ナンバリング・コード	DNDR44041993		
授業科目名/(英語名)	臨床歯学研究概論/(The Outline of Clinical Dentistry)		
対象年次 4年次	講義形態 講義形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	歯学研究コース	科目分類 研究科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 村田比呂司(教務委員長)/hmurata@nagasaki-u.ac.jp/病院 8階歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内 7690)/当日に各担当者へ直接尋ねること。			
担当教員(オムニバス科目等)	齋藤俊行、吉田教明、藤原 卓、山田 志津香、吉村篤利、澤瀬 隆、村田比呂司、梅田正博、朝比奈泉、中村 卓、鮎瀬卓郎、中留真人		
授業の概要及び位置づけ 本大学院の臨床歯学分野の研究内容について理解する。 臨床歯学研究における配属先研究室を選択する。			
授業到達目標 本大学院の臨床歯学分野の研究内容について理解する。			
授業方法(学習指導法) 各臨床系分野担当教員によるオムニバス講義を行い、各研究室における研究内容の紹介と配属後の実習内容について紹介する。なお、3年次の基礎歯学研究概論の中で歯科法医学を受講していないため、基礎系分野ではあるが講義を行う。			
授業内容 1回目 口腔保健学(齋藤俊行):口腔と全身との関連性を見だし、実験で機序を解明していく全体の流れについて 2回目 歯科矯正学(吉田教明):歯の移動の生物学的・生体力学的メカニズムや顎口腔系の機能と形態について 3回目 小児歯科学(藤原 卓):小児歯科における最新の研究トピックスについて 4回目 齶蝕学(山田 志津香):再生医療に必要な要因ならびに実際の歯髄再生療法について説明する。 5回目 歯周病学(吉村篤利):歯周病の発症に関わる様々な因子について概説する。 6回目 口腔インプラント学(澤瀬 隆):インプラントに関わる生物学的研究、材料学的研究について概説する。 7回目 歯科補綴学(村田比呂司):義歯用材料の開発、口腔機能に関する研究 8回目 口腔腫瘍治療学(梅田正博):口腔領域悪性腫瘍の特徴、診断と治療法について 9回目 顎口腔再生外科学(朝比奈泉):幹細胞、成長因子を用いた口腔領域の再生医療について概説する。 10回目 頭頸部放射線学(中村 卓):頭頸部画像診断法の概略について述べる。 11回目 歯科麻酔学(鮎瀬卓郎):未定			
キーワード			
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	レポートにより評価する。 レポートは、各回の授業終了後1週間以内に学務係に提出するものとする。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の2/3以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	各担当教員に遠慮なく質問してください。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	4	水	V	(口腔保健学) 口腔と全身との関連性について、これまでどのように解明されてきたか、その研究手法について、また当教室の研究内容について概説する。	齋藤	第2講義室
2回	10	11	水	V	(歯科矯正学) 歯科矯正学:矯正力により、どのようにして歯が移動するのか?そのメカニズムに関する生物学的・生体力学的アプローチ、顎口腔における機能と形態の関連について当教室の研究を紹介し、今後の実験内容について説明します。	吉田	第2講義室
3回	10	18	水	V	(小児歯科学) 小児歯科学分野で行われている研究の最新のトピックス(う蝕細菌の進化, う蝕ワクチン, 乳歯を用いた再生医療等)について説明する。	藤原	第2講義室
4回	10	25	水	V	(齶蝕学) 再生医療について概説する。さらに、実際の歯髄再生療法について、具体的な内容と、基礎的・臨床的な研究について説明する。	山田	第2講義室
5回	11	1	水	V	(歯周病学) 歯周病の発症に関わる様々な因子について概説するとともに、どのような実験を行って、発症のメカニズムを明らかにするのかを説明する。	吉村	第2講義室
6回	11	8	水	V	(口腔インプラント学) インプラントに関わる生物学的研究, 材料学的研究について概説し, 今後の実習内容について説明する。	澤瀬	第2講義室
7回	11	15	水	V	(歯科補綴学) 当教室が行っている義歯用材料の開発、口腔機能に関する研究について紹介し、実習内容を説明します。	村田	第2講義室
8回	11	22	水	V	(口腔腫瘍治療学) 口腔癌の特徴や病態などについて解説し、診断法や当科で行っている標準治療や予後などについて紹介します。	梅田	第2講義室
9回	11	29	水	V	(顎口腔再生外科学) 幹細胞、成長因子、基質を組み合わせる組織工学の手法を使い、歯槽骨、顎骨、口腔粘膜、唾液腺、歯など口腔組織の再生法を紹介する。	朝比奈	第2講義室
10回	12	6	水	V	(頭頸部放射線学) 頭頸部画像診断法の概略について述べる。	中村	第2講義室
11回	12	13	水	V	(歯科麻酔学) 未定	鮎瀬	第2講義室

年度 2017 学期 通年	曜日・校時 5 年次/(前)火・V (後)水・V 6 年次/水・V	必修選択 選択	単位数 3
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25104904 DNDR44051993 歯学研究/(Dental Research)		
対象年次 5 年次、6 年次	講義形態 実験形式	教室 各基礎系、臨床系研究室	
対象学生(クラス等)	歯学研究コース	科目分類	研究科目
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスマワー 村田比呂司(教務委員長)/hmurata@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内 7690)/当日に各担当者へ直接尋ねること。			
担当教員(オムニバ ス科目等)	真鍋義孝、小守壽文、中村渉、根本孝幸、藤田修一、中山浩次、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、中留真人、齋藤俊行、吉田教明、藤原 卓、山田 志津香、原 宜興、澤瀬 隆、村田比呂司、梅田正博、朝比奈泉、中村 卓、鮎瀬卓郎 他		
授業の概要及び位置づけ			
本大学院の基礎、臨床歯学分野の研究室で研究を行い、歯学の最先端の研究活動に参加する機会とする。			
授業到達目標			
本大学院の基礎、臨床歯学分野の研究活動について理解する。			
授業方法(学習指導法)			
各基礎、臨床系分野担当教員の指導のもと、実験等を行う。			
授業内容			
<p>○ 5 年次:前期火曜日 V 校時、後期の水曜日 V 校時(90 分×30 回) 6 年次:前期の水曜日 V 校時(90 分×15 回) 予定 ※実験など内容によっては回数や時間数が変更になる場合もある。 ○ 各コース内容に関しては次頁の授業内容を参照のこと。学生との話し合いで多少の変更もありえる。</p> <p>(基礎系コース)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 顎顔面解剖学(真鍋義孝):顎顔面領域形質の小進化について、解剖体や人骨資料をもとに解析を行う。 2. 細胞生物学(小守壽文):遺伝子改変マウスの組織学的、分子生物学的解析を行う。 3. 加齢口腔生理学(中村渉):電気生理学方法と精神物理学的方法による味覚感受性の研究。 4. 口腔分子生化学(根本孝幸):プロテアーゼや分子シャペロンに関して遺伝子工学実験、生化学実験を行う。 5. 口腔病理学(藤田修一):病理標本の作製実習及び臨床病理症例の形態学的検討を行う。 6. 口腔病原微生物学(中山浩次):細菌を用いた遺伝生化学的実験研究などを行う予定。 7. 歯科薬理学(筑波隆幸):実験動物、細胞培養、遺伝子工学実験、生化学実験などを行う予定。 8. 生体材料学(渡邊郁哉):歯科用生体材料の各種物性評価試験を行う予定。 9. 分子硬組織生物学(伊藤公成):遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学および骨代謝学に関する解析を行う予定。 10. 歯科法医学(中留真人):歯科法医学的鑑定及び研究手法について学ぶ。 <p>(臨床系コース)</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 口腔保健学(齋藤俊行):口腔と全身との関連性を見だし、その機序を解明して行く全体の流れについて理解する。 12. 歯科矯正学(吉田教明):矯正力による歯の移動に関する基礎、臨床研究を行う。 13. 小児歯科学(藤原 卓):小児から齶蝕病原細菌の分離とその病原性についての遺伝子工学実験を行う。 14. 齶蝕学(山田 志津香):歯髄再生に必要な歯髄幹細胞に関して細胞特性を学習する。 15. 歯周病学(原 宜興):歯周病の発症に関わる様々なリスク因子の評価法について学習する。 16. 口腔インプラント学(澤瀬 隆):生体材料の親和性評価ならびに歯冠修復材料の耐久性試験について学習する。 17. 歯科補綴学(村田比呂司):補綴用材料の開発、口腔機能に関する研究 18. 口腔腫瘍治療学(梅田正博):口腔癌の再発・転移に関して臨床病理学的研究を行う。 19. 顎口腔再生外科学(朝比奈泉):幹細胞、成長因子を用いた口腔領域の再生医療について概説する。 20. 頭頸部放射線学(中村 卓):細胞ストレスの研究 21. 歯科麻酔学(鮎瀬卓郎):動物での基礎研究、人での臨床研究の手法を学ぶ。 			
キーワード			
教科書・教材・参考書	各コース教員の指定する教材		
成績評価の方法・基準等	主に発表内容、レポート等。詳しくは各コース担当教員に尋ねること。		
受講要件(履修条件)	希望する研究室を学務係に申告すること。研究室によっては人数制限がかかる場合もある。全体を通じて総授業数の 3/4 以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	指導教員とよくディスカッションするように。		

(基礎系コース)

No.	コース	授業内容	日程	担当者
1	顎顔面解剖学研究	顎顔面領域の形質の小進化について、解剖体資料や人骨資料からのデータ採取、解析、結果の解釈を行う。 定員は1名の予定	5年次/前期:火V 後期:水V 6年次/水V(予定)	真鍋 北川 小山田
2	細胞生物学研究	遺伝子改変マウスの組織学的、分子生物学的解析を教員の指導のもとに行う。 定員は2名の予定		小守 宮崎
3	加齢口腔生理学研究	電気生理学方法による味細胞および味神経応答の測定または精神物理学的方法によるヒト味覚感受性の感応評価。 定員は1名の予定		中村 藤山 介田
4	口腔分子生化学研究	教員の指導のもと、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は2～3名の予定		根本(孝) 根本(優) 馬場
5	口腔病理学研究	分子細胞生物学的な研究にも、患者の臨床病理診断にも不可欠な形態学的研究手法を学ぶ。パラフィン及び樹脂包埋標本の作製、免疫組織化学、細胞生物学的実験を行う。 定員は2名の予定		藤田 片瀬
6	口腔病原微生物学研究	微生物、特に細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を教員の指導のもとに行う。 定員は2～3名の予定		中山 内藤 庄子 佐藤
7	歯科薬理学研究	教員の指導のもと、動物の取り扱い方、培養細胞法、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は2～3名の予定		筑波 岡元 西下 坂井
8	生体材料学研究	教員の指導のもと、各種物性試験機器の取り扱い方、物性試験方法について学ぶ。 定員は2名の予定		渡邊 白石
9	分子硬組織生物学研究	教員の指導のもと、遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学および骨代謝学の実験法について学ぶ。 定員は2名の予定		伊藤 増山
10	歯科法医学研究	歯科法医学的鑑定及び研究手法について学ぶ。 定員は1名の予定		中留

(臨床系コース)

No.	コース	授業内容	日程	担当者
11	口腔保健学研究	口腔と全身との関連性を見だし、その機序を解明して行く全体の流れについて理解する。 定員は1～2名の予定	5年次/前期:火V 後期:水V 6年次/水V(予定)	齋藤 福田 北村 古堅 小山
12	歯科矯正学研究	教員の指導のもと、矯正力による歯の移動や歯根吸収のメカニズムに関する基礎、臨床研究の手法を学ぶ。 定員は2～3名の予定		吉田 古賀 佛坂 藤村 田中
13	小児歯科学研究	教員の指導のもと、小児からの齲蝕病原細菌の分離を行い、それらの細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を行う。 定員は2～3名の予定		藤原
14	齲蝕学研究	教員の指導のもと、歯髄幹細胞を使って細胞培養系で歯髄再生に必要な安全性試験などを学ぶ。 定員は2名程度の予定		山田 柳口
15	歯周病学研究	歯周病の発症に関わる様々な因子について、どのような方法でそれぞれのリスクを評価するのかを学習する。 定員は2～3名の予定		原 吉村
16	口腔インプラント学研究	生体材料の親和性評価ならびに歯冠修復材料の耐久性試験について学習する。 定員は2～3名の予定		澤瀬 平 吉田 黒嶋
17	歯科補綴学研究	当教室が行っている補綴用材料の開発、口腔機能に関する研究について概説します。これらの中から指導教官とテーマを決め、実験を行います。 定員は2～3名程度の予定		村田 鳥巢 黒木
18	口腔腫瘍治療学研究	口腔癌切除組織を用いて再発や転移に関連する因子について組織学的・免疫組織学的に検討するとともに、予後との関連性について統計学的な解析法を学ぶ。 定員は2名程度の予定		梅田
19	顎口腔再生外科学研究	幹細胞、成長因子、基質を組み合わせる組織工学の手法を使い、歯槽骨、顎骨、口腔粘膜、唾液腺、歯など口腔組織の再生法を紹介する。 定員は2～3名の予定		朝比奈
20	頭頸部放射線学研究	細胞ストレスの研究 定員は2名の予定		中村 佛坂 片山
21	歯科麻酔学研究	教員の指導のもと、実験動物を用いた基礎研究の方法、人での臨床研究の方法、実験で得られた呼吸・循環系の測定値の評価について学ぶ。 定員は2～3名の予定		鮎瀬 倉田 岡安